

## 2010年春節模様

赴任以来3回目の春節（旧正月）を迎えました。中国では1月1日を公休日としていますが、人々が新年を迎える気持ちはやはりこの春節を区切りとしています。多くの祝祭日は旧暦ののっとり日にちが決定されるため毎年異なる月日となり、かつ前後の週末を振り替えて連休とするので、12月初旬に中央政府より発表される年間祝祭日のスケジュールは、人々にとってちょっとしたトピックスになります。今年の春節は2月14日、奇しくもバレンタインデーと重なりましたが、家族を重要視する中国の習慣を色濃く残す東北では、新年を迎える勢いに押され、ややかすんでしまっているように感じました。



他の祝祭日では営業しているレストランもこの時ばかりは一斉に休みに入り、工場に出稼ぎに来ている労働者や寮生活を義務付けられている大学生は、帰省チケット獲得のため、数週間前より奔走することになります。今年は春節が日曜日であった為、2月13日（土）～19日（金）が休日、20日（土）、21日（日）が振替出勤という日程でした。大連開発区のメーカーは2月10日の午後より実質的に休暇体制に入り、大連市内においても12日（金）は半日出勤体制をとる企業が多かったようです。



大晦日にあたる13日は午後6時ごろから爆竹や花火が各所で打ち上げられ、年越しの0時過ぎまでひっきりなしに打ち上げ音が鳴り響いていました。30階の高層マンションでも窓を開ければ煙が鼻につき、最初は鮮明に見えていた花火もかすんでみえるようになります。

また仕事始めの日にも改めて爆竹を打ち鳴らすため、道路が真っ赤に染まります。報道によると大連で春節連休中に出た爆竹の燃えカスは約1250トン、昨年より700トンの減少とのことですが十分に目に鮮やかな紅尽くでした。新暦と旧暦の違いが味わえる春節は、日本と一衣帯水の中国とはいえ、異国にいることを自然と思い起こさせる習慣といえるでしょう。

